

東北農業経済学会シンポジウム

J Aの役割に注目

山形県最上地域の成功例紹介

【山形】東北と新潟県「する東北農業経済学会」を開いた。2018年産の大学などの試験研究機関、25日、鶴岡市の山形大学農学部で第53回山形大会「以降の米政策見直しを見据え、東北水田農業の関や行政関係者」で組織

近未来」をテーマにしたシンポジウムで、地域農業にJAが果たしている役割に注目が集まった。山形大学農学部の角田毅教授は、水稲単作・出稼ぎ依存から脱却した山形県最上地域の園芸振興策に注目。生産者と行政、JAが一体となった成功例と位置付け「特に

共同選果場や農作業受託など、生産者が園芸に取り組みやすい環境整備に努めてきたJAの役割が大きかった。農家によるマンツーマンでの育成も奏功した」と報告した。JA庄内たがわの佐藤昌幸さんは、休耕田をよみがえらせ、地域ぐるみで中山間地を守る鶴岡市

のJA出資型法人、あつみ農地保全組合の取り組みを報告。「JAが一貫して関わることで信頼が得られる。地域に希望がわき、新たな農事組合法人や若手新規就農者も生み出した」と話した。山形県JA営農指導員協議会員約40人を含め、約100人が参加した。